

# ふくしま再生の会 今春からの活動計画(案)

2013. 2. 22

特定非営利活動法人ふくしま再生の会  
理事長 田尾陽一

# I. 試験水稻栽培の今後

- ①H25年度に、国の除染が終了するAとBの田圃の中から、いくつかの田圃を選定する。
- ②H24年度除染モデル事業により除染したC(長泥地区)の田圃および対照区に対し、試験作付けを行う。
- ③村民・飯舘村・ふくしま再生の会・東大福島復興農業工学会議・福島県・農研機構は、今年度試験水稻作付について、上記の案などをたたき台として合意に向けて協議を開始する。

飯舘村の現状 3区分されている。

A.避難指示解除準備区域(推定年間20mSv以下)

B.居住制限区域(推定年間20mSv～50mSv)

C.帰還困難区域(推定年間50mSv超)

# 具体的計画案

1. 対象試験田選定(A.B.C.)
2. 土壌放射エネルギー測定①
3. 農水省が剥ぎ取り除染 (C. では、モデル除染区と対照区)
4. 土壌放射エネルギー測定②
5. 代掻き
6. 施肥・カリウム量調整
7. 作付け
8. 坪刈
9. 移行放射エネルギー測定①
10. 刈取り
11. 移行放射エネルギー測定②
12. 土壌放射エネルギー測定③
13. 粃・玄米・白米・わら・根などの処置法の決定・実行
14. 試験作付け全体評価
15. 発表

## Ⅱ. イノシシ・プロジェクトの今後

以下の3つのパターンを維持する体制を創る。

- ①**長期モニタリング目的**: 随時  
害獣駆除の檻または狩猟での捕獲。  
その筋肉(食用となるモモ肉や胸肉等)を現地にて採材し、20mlの容器に詰めて東大農学部へ送る。
- ②**詳細モニタリング目的**: 季節ごと  
胃の内容物、血液、排泄物、筋肉等臓器を現地で採材する。
- ③**病理検査目的**: 年に1, 2回  
専門家による解剖による病理検査のためのフル採材(ホルマリン保管を含む)。
- ④サルや野鳥についても、協力体制を作りたい。

# Ⅲ. モニタリングセンター事業の今後

## 経過:

1. 飯舘村モニタリングセンター計画合意(2012年7月)
2. ふくしま再生の会が、飯舘村より受注(2012年9月)  
事業全体責任・GPSガイガー／ロガー・サーバー系開発／運用・測定運用・校正・監修・  
住民説明・住民への結果表示等
3. 測定体制・センター機能計画の詳細化・財務／経理体制の確立
4. 全村測定開始(定期的運用体制確立)
5. 合同会社いいたて協働社設立(2013年1月)  
菅野宗夫代表・村民4名出資常務社員就任・社内体制・村内協力体制確立・地区長会議説明

## 今後の課題:

1. 次年度予算確保・長期事業体制に向けて、村役場全体・ふくしま再生の会・いいたて協働社が、国の各省に働きかけ中。
2. 2013年4月以降の予算が決まっていないが、飯舘村・ふくしま再生の会・いいたて協働社は相互協力体制を強化する。
3. いいたて協働社の村民メンバーを増強し、測定体制を強化し、設備を整える。
4. 近い将来、次の二つの機能を内包する。

### 総合分析センター:

地域住民・組織からの土壌・水・大気・森林・農作物・動物・植物などの放射エネルギーの測定依頼を引き受け、その総合分析を担う。

### 地域情報センター:

避難中の住民・支援者・外部関係者が、被災地域の情報を見ること、相談することができる施設。